

緑・にぎわい

緑・にぎわいの方向性 | 地域資源のもと、関わりしからにぎわいが生まれ変化する街

- ・ 地域固有の緑や水、史跡等を中心に、官民が連携し、緑のある質の高い空間づくりを目指します。
- ・ すでにある地域コミュニティや活動、三鷹市とのつながりなどを通じて、まちへの関わりしを上げていきます。また、日常生活から地域活動にいたる様々なシーンで活用できる居場所づくりに取り組みます。
- ・ 土地利用と連携し、生活利便施設やパブリックスペースなどを生み出すとともに、主に住む人や働く人が活用することで、地域経済の循環と発展につなげます。

関連する上位計画等の位置づけや現況データ

上位計画等における位置づけ

【第六期長期計画・第二次調整計画】

三鷹駅北口周辺に関して、玉川上水を生かした緑豊かでにぎわいの広がる空間の創出やパブリックスペースを利活用したにぎわいづくり、などが求められている。

【武蔵野市民緑の憲章(S48)】

当時全国でも唯一、緑をテーマとする「武蔵野市民緑の憲章」を制定。「緑は市民の共有財産」を理念とし、市民と市の役割を明確化、次世代に引継ぐ決意を示した。

【武蔵野市緑の基本計画2019】※現在「緑の基本計画2027」策定作業中

市内の緑は駅周辺で少ない傾向。『緑の憲章』の精神を受け継ぎ、将来像として緑被率30%、緑被地面積329.4haを目標として掲げている。

【武蔵野市景観ガイドライン】

玉川上水、千川上水等の水辺や農地など、地域の自然や歴史を活かした文化の香り高いまち、緑豊かで良好な住環境を維持・保全し、落ち着いた雰囲気のある街並みの形成の推進が計画されている。

現況データ

- ビジョンエリア内には、横河グラウンド周辺やかたらいの道沿道、桜通り沿道に緑被地が見られるが、まとまった公園や緑地が少ない。
- かつての武蔵野の雑木林にあったコナラやクヌギなどは、玉川上水沿いに分布している。
- 三鷹駅北口では、商店会やマルシェなどが地域活動を展開している。活動場所としては、北口駅前広場、かたらいの道、タワーズ公開空地、横河グラウンド等が活用されている。
- 三鷹駅北口周辺地域の魅力を一層高め、にぎわいを創出するため、三鷹駅北口街づくりラボや、オープンストリート・オープンテラス社会実験に取り組んでいる。

まちづくり、緑・にぎわいに関する動向

【国土交通省：グリーンインフラ推進戦略2030】

グリーンインフラ活用が当たり前の社会の実現を目指し、グリーンインフラ実装により対応可能な7つの社会課題、分野横断的な環境整備に関する6本柱を示している。

【東京都：多摩のまちづくり戦略】

地域の持つ個性をいかしたまちづくりを進めることの必要性、都市経営コストの効率化を図り快適な環境の実現、拠点間の交流・連携促進が求められている。

【東京都：みどりの新戦略ガイドライン】

公共の役割として、①主要なみどりの拠点づくり、②主要なみどりの軸づくり、③都民・民間事業者等によるみどりづくりの誘導が求められている。

【大丸有エリアマネジメント協会：大丸有エリアマネジメント】

大手町・丸の内・有楽町エリアにおいて、「公的空間活用」、「コミュニティ形成」を目的として、地域の活性化やにぎわいづくりなどに取り組んでいる。

【道路法等の一部を改正する法律】

道路の整備及び管理に伴う温室効果ガスの排出削減が求められている。

市民の声

※H24年～R5年に開催された、市民意見交換会等の内容より抽出

【緑の重要性】

緑を残してほしい。並木を育ててほしい。

【文化と歴史の活用】

駅周辺にあるたくさんの方の史跡を市の顔として、まちづくりに生かしてもらいたい。文化的な施設や催しからまちを発信してほしい。地域の歴史や文化を活かしたまちづくりをしてほしい。

【コミュニティの形成】

市民と行政のコミュニケーションの場や子供やお年寄りも集える場が欲しい。

【イベントとスペースの活用】

駅前にイベントスペースがほしい。地域のにぎわいを創出するため、歩道・車道等を活用したイベントをしてほしい。

【商業の活性化】

地元商店街の元気がない。地域経済を活性化するための商業施策が必要だと思う。特に、飲食店や小規模店舗との連携をしてほしい。

街づくりビジョンが目指す「緑・史跡」

玉川上水や史跡などの地域資源と人をつなげることで、「緑のある質の高い駅まち空間」につなげる。

●街づくりビジョンが目指す「質の高い駅まち空間」

〈5W1Hによる定義の整理〉 ※要議論

Why : 質を高める目的	「三鷹駅北口らしい」駅まち空間へ、多様な空間づくり
Who : 緑・史跡を創出する担い手・もの	地域に関わるすべての人・企業・団体、武蔵野市、(三鷹市) 緑、玉川上水、史跡 など
When : 創出するタイミング	土地、建物、公共空間等の改修、更新時 日常、イベントなどの活動時
Where : 対象エリア	三鷹駅北口周辺エリア、三鷹駅を中心とするエリア 主に、緑、玉川上水、史跡、公有地、民有地 ※要議論
What : 実現のためにやること	公有地と民有地を緑等でつなぎ、まちに連続性を生む 路線ごとの特性に応じた緑を中心とした空間を整備する 等 ※要議論
How : 実現のための方法	関わる人々が目的を共有する、ルールづくり 維持管理に関わるプレイヤーを増やす 等 ※要議論

〈方針の導き出し〉

【緑・にぎわいの方向性】

地域資源のもと
関わりしるから
にぎわいが生まれ
変化する街

【計画の方針】

方針①：緑・水・史跡などの地域資源の活用

方針②：緑のある質の高い空間づくり

方針③：様々な関わりしるを生み出す
(日常生活、きっかけから成熟まで)

方針④：日常生活や活動の場所づくり

【ハード/ソフトの考え方】

【ハード】
地域資源の保全・利活用
つながりのある場所や空間づくり
余白づくり

【ソフト】
日常生活
関わりしるを生むきっかけづくり
から地域活動の成熟まで

【街の要素 例(地域の価値・資源)】

玉川上水や街路樹の緑、史跡

魅力ある個人店、小商い

街に点在する地域施設や市有地

活動的な地域の団体や企業

街づくりビジョンが目指す「にぎわい」

「関わりしろ」から、新たな行動や活動が表れ、街の空間も変わる。それは、時代の流れによっても変化し続ける。

●街づくりビジョンが目指す「にぎわい」

〈5W1Hによる定義の整理〉 ※要議論

Why :にぎわいづくりの主な目的	心地よい日常生活をめざす 様々な関わりしろから、地域活動、地域経済の循環、発展につなげる
Who :にぎわい／関わりしろ創出の担い手・もの	地域に関わるすべての方 (主に住む人・働く人、地元企業・店舗、地元組織(商店会・三鷹ラボ等)、武蔵野市、(三鷹市))
When :にぎわいが起きようになるタイミング	これから(社会実験→暫定利用→社会実装→定常化)
Where :対象エリア	三鷹駅北口周辺エリア、三鷹駅を中心とするエリア 主に、パブリックスペース、地域施設、地域資源(緑・水・史跡) ※要議論
What :実現のためにやること(主にハード面)	「やってみたい」を実現する空間の整備、空間の余白をつくる、 生活利便施設(低層商業)の連続性をつくる 等 ※要議論
How :実現のための方法(主にソフト面)	ルールづくり、関わりしろのきっかけづくり、支援体制づくり 等 ※要議論

〈方針の導き出し〉

【緑・にぎわいの方向性】

地域資源のもと
関わりしろから
にぎわいが生まれ
変化する街

【計画の方針】

方針①：緑・水・史跡などの地域資源の活用

方針②：緑のある質の高い空間づくり

方針③：様々な関わりしろを生み出す
(日常生活、きっかけから成熟まで)

方針④：日常生活や活動の場所づくり

【ハード／ソフトの考え方】

【ハード】
地域資源の保全・利活用
つながりのある場所や空間づくり
余白づくり

×
【ソフト】
日常生活
関わりしろを生むきっかけづくり
から地域活動の成熟まで

【街の要素 例(地域の価値・資源)】

玉川上水や街路樹の緑、史跡

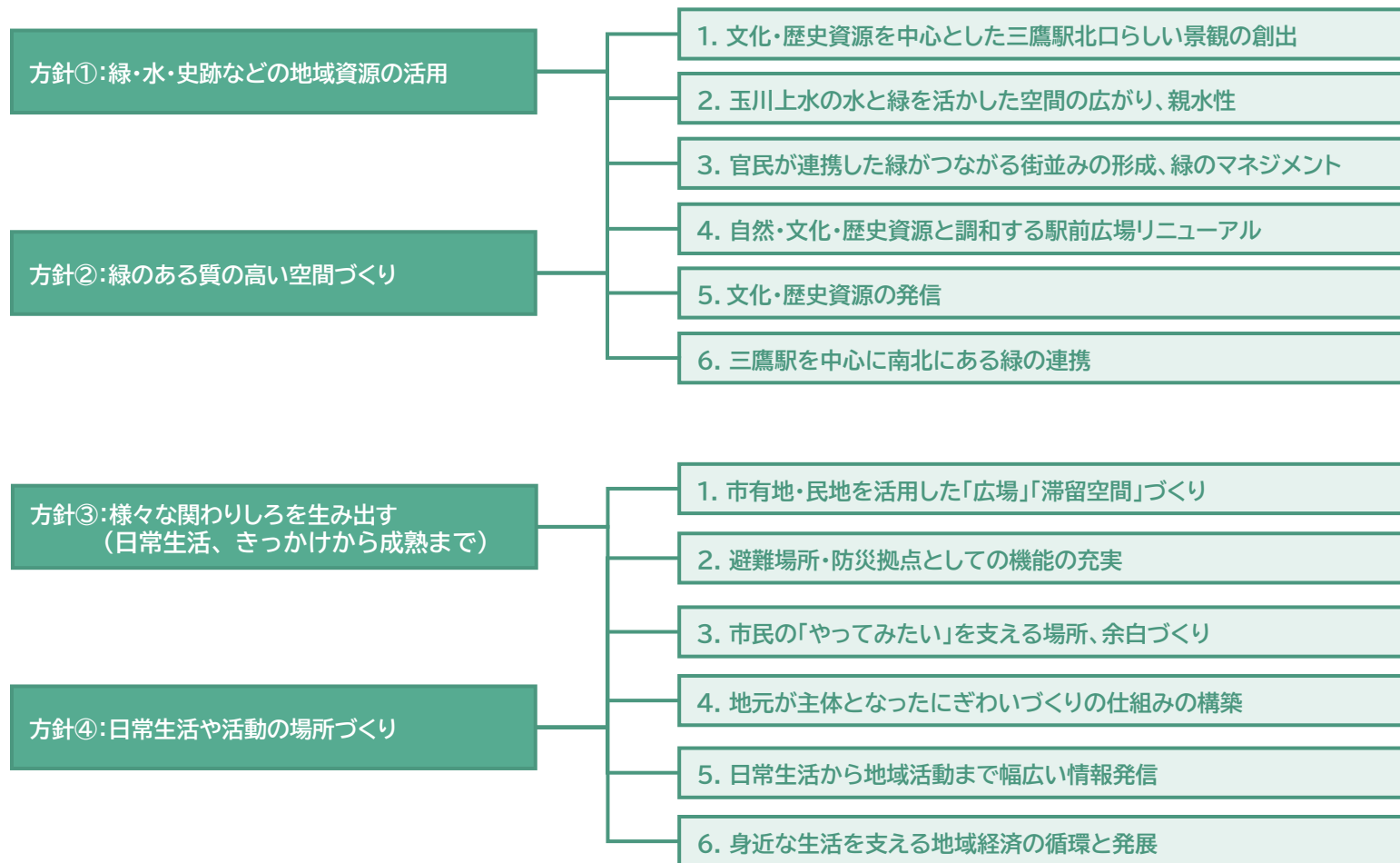
魅力ある個人店、小商い

街に点在する地域施設や市有地

活動的な地域の団体や企業

緑・にぎわいの取組方針と施策

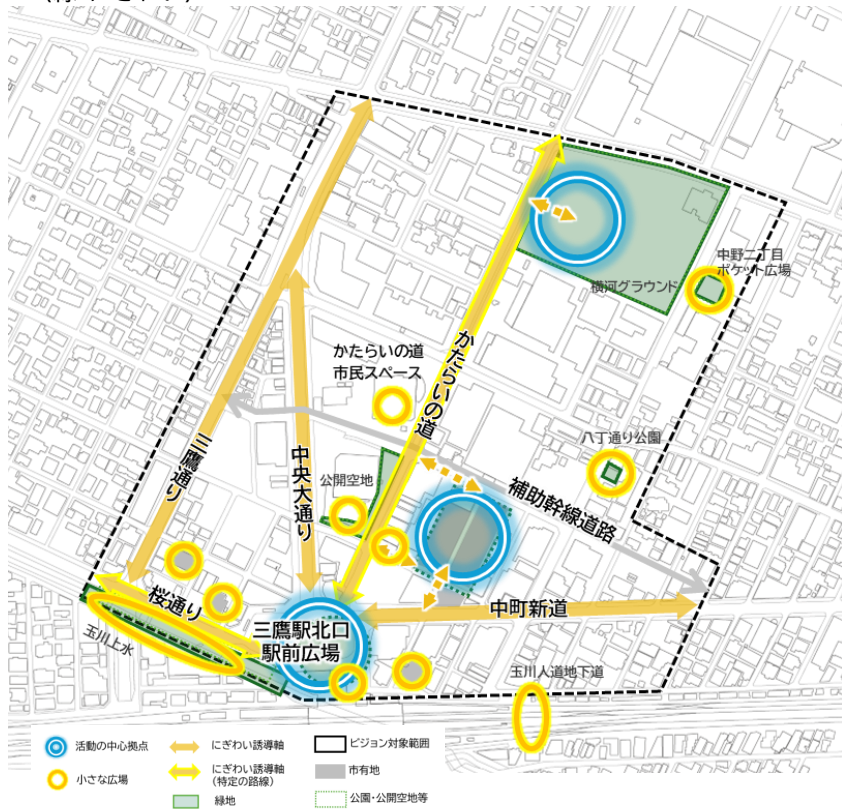
- 緑、にぎわいの取組方針と施策を示す。



緑・にぎわいの考え方

●「交通」「土地利用」との整合

〈緑・にぎわい〉



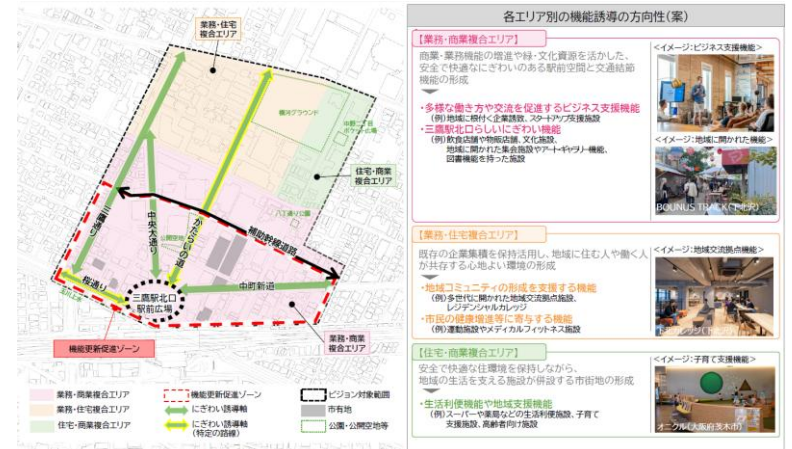
【ビジョン策定にあたっての留意点】

- ・ 「交通」における各路線の位置付け、駅前広場の整備方針との調整
- ・ 「土地利用」における各エリアの機能誘導と、「緑・にぎわい」での拠点の配置、実現したいシーンとの整合

〈交通〉



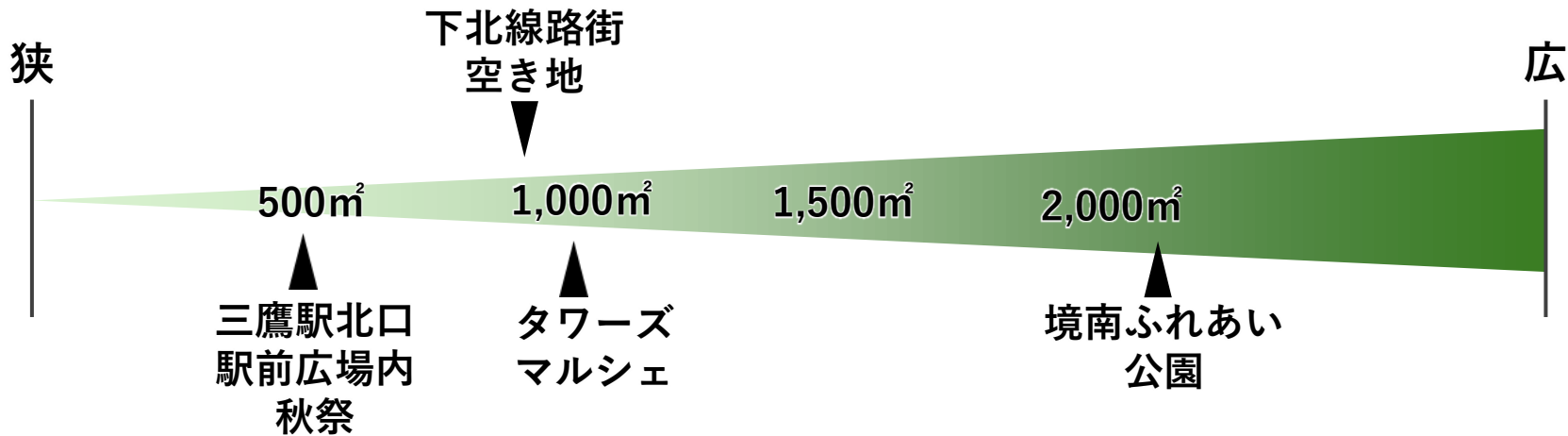
〈土地利用〉



Where

場所は？





- ・ 待ち合わせ
- ・ 休憩・佇む
- ・ 情報発信
- ・ フリーマーケット
- ・ 地元農産物などの販売
- ・ 朝のラジオ体操
- ・ 親子交流スペース
- ・ 小規模なイベント
- ・ ワークショップ
- ・ 中規模なイベント
- ・ スポーツイベント





横河グラウンド



かたらいの道沿道地



世界連邦平和像



駅前広場

玉川上水・桜通り



ENJOY! OPEN TERRACES武蔵野



Enjoy! OPEN STREETS武蔵野



玉川上水



独歩の碑

地域資源
関わりしろ
三鷹駅北口らしさ



下北カレッジ(下北沢)



境南ふれあい公園



秋祭



BOUNUS TRACK(下北沢)



南池袋公園



マルシェ



How
関わりしろは?

緑・にぎわいの考え方

●取組方針とあるべき緑・にぎわいのシーン

方針：日常生活や活動の場所づくり

<意見交換していただきたい内容>

- ・ 三鷹駅北口に必要なのはなにか
→ 佇む、イベント、チャレンジマルシェ…etc
- ・ 活動を支える拠点はどこに着目すればいいか
→ 位置(範囲)、数、大きさ、
土地利用や交通環境との関係性
災害時の対応との関連性…etc
- ・ 市有地活用の可能性

例：地域の飲食店
やクリエイターが
ポップアップを
出店する

例：子供と大人が
一緒に楽しめる
アートイベントを
行う

●事例：茨木市、文化・子育て複合施設 おにクル

方針：緑・水・史跡などの地域資源の活用

<意見交換していただきたい内容>

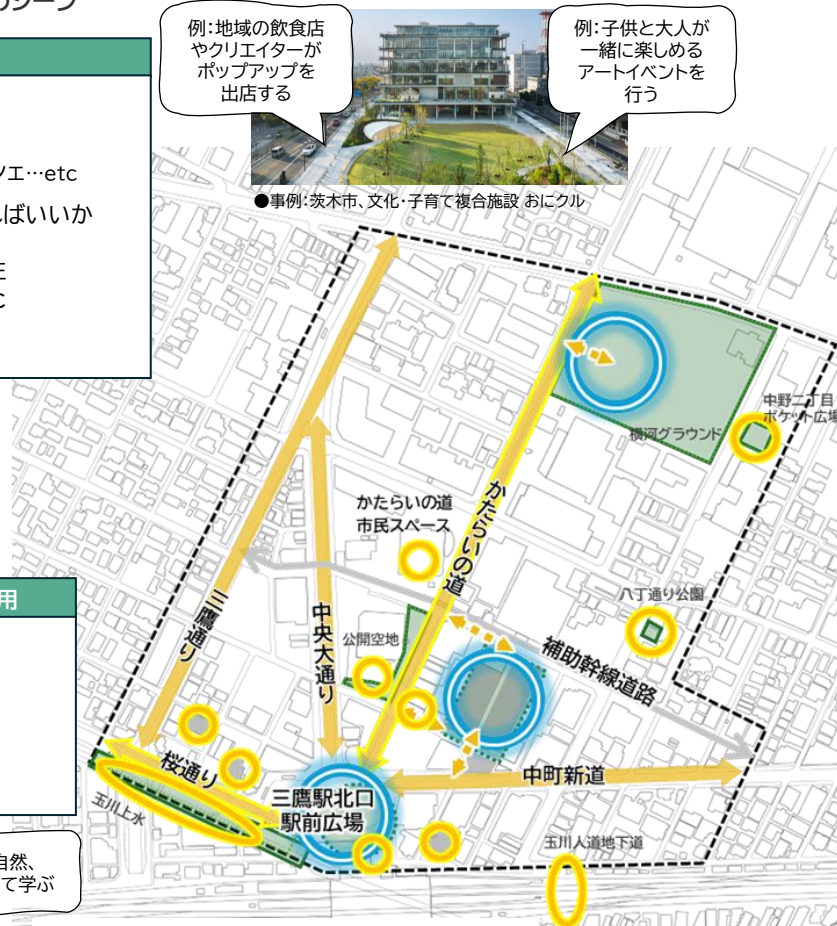
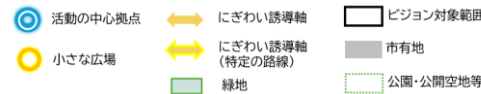
- ・ 地域資源の活用イメージ
→ 活かし方、発信方法
→ 距離感、認知度 …etc
- ・ 文化の視点

例：地域の団体が
植栽を手入れる

例：地域の自然、
生態系について学ぶ



●事例：下北沢、シモキタ園芸部 こや・のはら



方針：緑のある質の高い空間づくり

<意見交換していただきたい内容>

- ・ 質の高い空間、質の高い緑とは…
- ・ マネジメントアイデア
→ シモキタ園芸部…etc
- ・ どんな場所が理想的か
→ 角地、公開空地、〇〇道路沿い…etc

例：ベンチに座って
ランチを食べる/
バスを待つ



●「小さな広場」のイメージ

例：子どもが
道や広場で遊ぶ

例：木陰やテラスの
下で一休みする



●かたらいの道等の道路空間のイメージ

例：グラウンドで
スポーツをする
子どもを眺める

方針：様々な関わりしろを生み出す

<意見交換していただきたい内容>

- ・ 関わりしろの作り方、巻き込み方
- ・ 活動の継続性、仕組みや支援のあり方

〈参考〉施策の事例

- 緑、にぎわいのイメージとして、「活動の中心となる拠点づくり」、「居心地の良いヒューマンスケールの空間創出」、「地域固有の価値・資源の活用」の事例を示す。

方針①：活動の中心となる拠点づくり

- 人、モノ、情報が集まり、お互いの顔が見える地域の活動の中心となる場
- 「小さく何かやってみたい」を叶えられる場
- 災害時の避難場所や防災拠点としての機能

○下北沢：BONUS TRACK・下北線路街 空き地



- 新たなチャレンジや個人の商いを応援する場
- 多様なジャンルのイベントや、オーナーが定期的に入れ替わるPOP UPキッチンなどが開催
- 地域一帯のイベントの拠点的位置付け

<出典：https://www.realpublicstate.jp/post/bonus-track-1/
https://uds-net.co.jp/press-release/press-11641/>

○茨木市：文化・子育て複合施設 おにくる



- ホールや図書館、子育て支援、市民活動センター、プラネタリウムなどの機能が入った複合施設。
- 芝生広場は、マルシェや音楽イベント等で使用可能。

<出典：https://www.onikuru.jp/>

方針②：居心地が良いヒューマンスケールの空間創出

- 民地／市有地を活用し、住む人、働く人などが居心地よく過ごす「小さな広場」を街に埋め込む
- 地域の自然の保全・活用、緑のネットワーク構築

○姫路市：姫路駅前広場



- 世界遺産・姫路城を焦点とするヴィスタ「大手前通り」とその起点である駅前広場の総合的な開発事業。
- 日本初のトランジットモールとし、サンクンガーデン、芝生広場、眺望デッキなど、人のための駅前広場へ。

<出典：https://wao-archi.com/project/public/himeji-station.html>

○武蔵野市：境南ふれあい広場公園



- 地域住民の交流と憩いを目的に整備された公共空間。多世代が利用できるオープンスペースは散歩や遊び場、防災拠点として機能し、季節のイベントも開かれるなど地域のにぎわいを育む。

<出典：https://www.mitsumura-tosho.co.jp/webmaga/kotoba-to-manabi/library/detail03
https://www.musashino.or.jp/place/1001617/1002792/1001624/1004948/1004954.html>

方針③：地域固有の価値・資源の活用
方針④：地域主体のマネジメントの推進

- 地域の価値（自然・史跡・文化）を発掘し、それらを発信・体感できる取り組みの支援
- 住民、企業等の協働による緑とパブリックスペースのマネジメント

○下北沢：シモキタ園藝部 こや・のはら



- こや：緑を介したまちづくりを担う下北園藝部の拠点
- のはら：下北園藝部が、のはらをはじめ、下北線路街の植栽管理を担う。
- 駅前空間での緑地づくりにより、生態系形成にも寄与。

<出典：https://shimokita-engei.jp/>

○武蔵野市：タワーズマルシェ@むさしの/
ENJOY! OPEN TERRACES

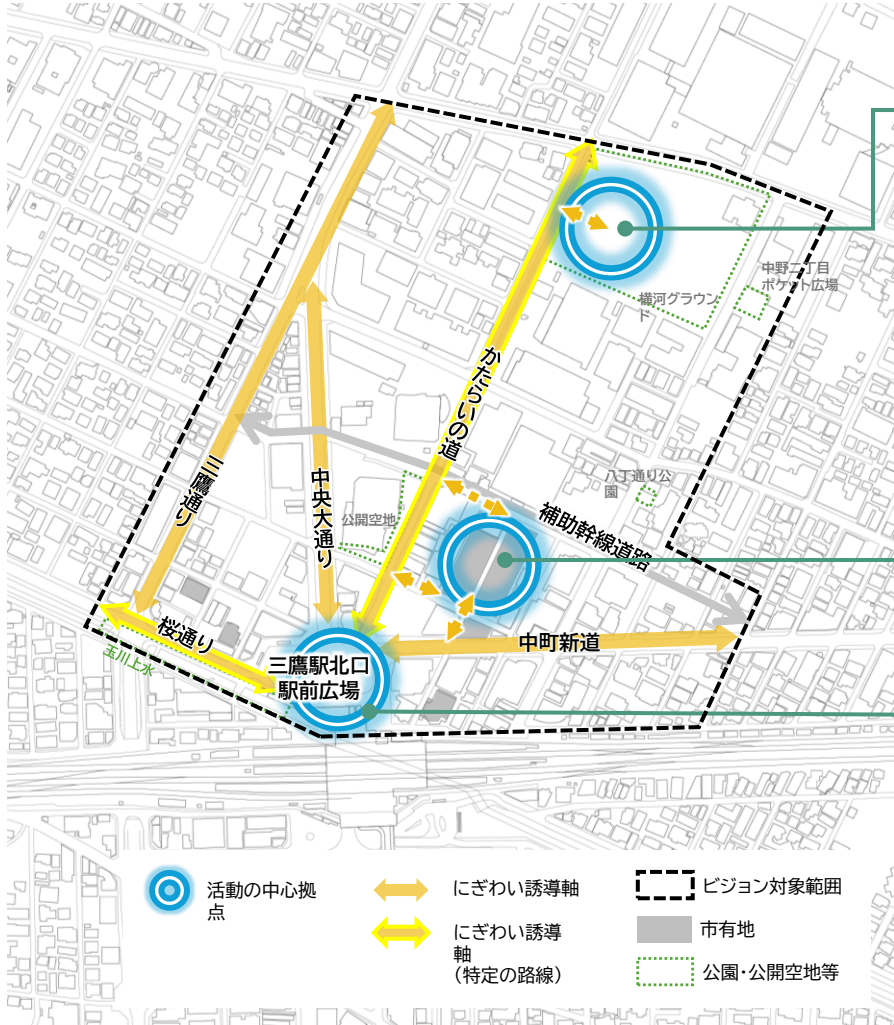


- 武蔵野タワーズの公開空地を利用した、地域に根付くマルシェイベントを定期的で開催。
- パブリックスペースの日常的な利活用やにぎわいづくりについて検証するため、歩道の上にテーブルやイス、ベンチ等を実験的に設置。

<出典：https://mu-maru.com
https://www.city.musashino.lg.jp/res/projects/default_project/page/001/031/760/2023kekka.pdf>

緑・にぎわいの方針(詳細)

●にぎわい誘導軸と活動・交流拠点



方針①:活動の中心となる拠点づくり

2. 市民の「やってみよう」を支える拠点空間の整備

3. 避難場所・防災拠点としての機能の充実

- 人、モノ、情報が集まり、「小さく何かやってみよう」を叶えられる場を創出する
- お互いの顔が見える地域の活動の中心となる場として、交流拠点と広場を整備する
- 非常時には、避難場所や防災拠点としての機能する

○事例:茨木市 文化・子育て複合施設 おにクル



<出典:https://www.onikuru.jp/>

1. 街のゲートとしての駅前広場リニューアル

- 交通結節点としての利便性・安全性を向上させるとともに、歩行者が主役で、地域の自然や文化を感じられる、街のゲートとして駅前広場を再整備する

○事例:姫路市 姫路駅前広場



<出典:https://wao-archi.com/project/public/himeji-station.html>

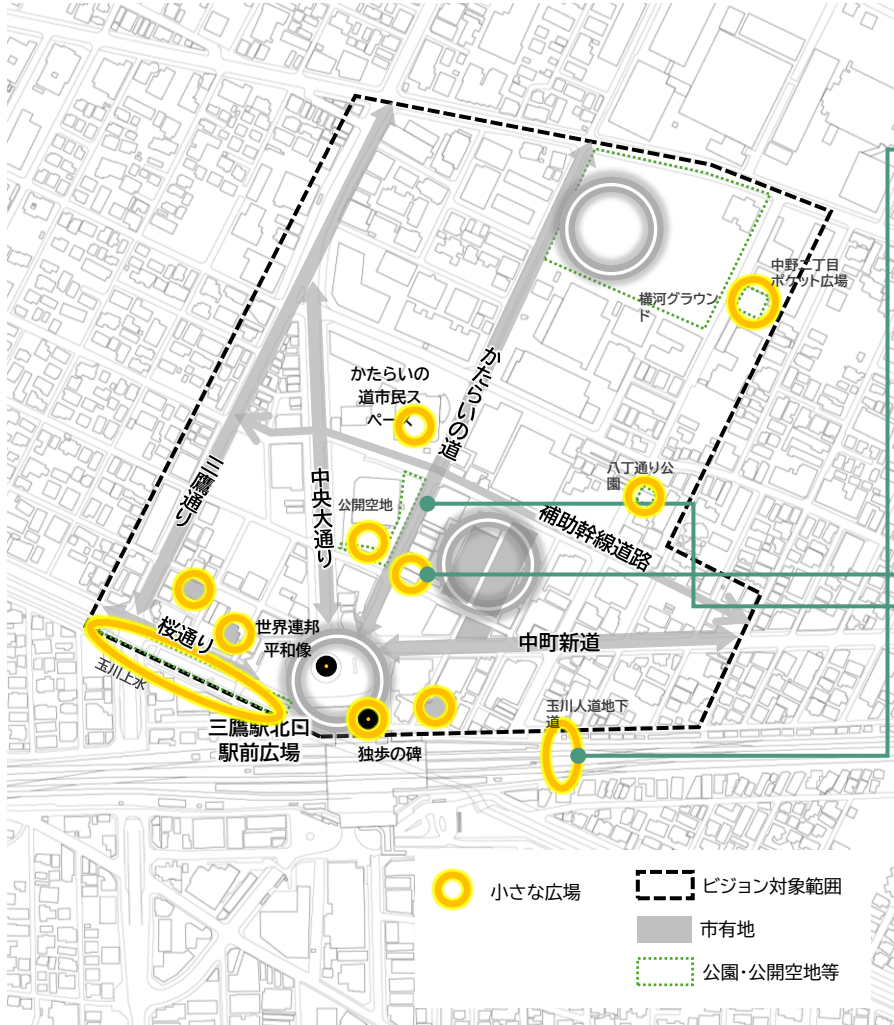
○事例:下北沢 ムーンアートナイト下北沢



<出典:https://tabi-labo.com/307567/wt-moonartnightfes-shimokitaza>

緑・にぎわいの方針(詳細)

●パブリックスペース(小さな広場)の配置と活用



方針②:居心地が良いヒューマンスケールの空間創出

1. 市有地・民地を活用した「小さな広場」の創出

- 市有地・民地、街路を活用し、住む人、働く人などが居心地よく過ごせる、緑と一体となった「小さな広場」を街に埋め込む

○事例:下北沢 BONUS TRACK・下北線街 空き地



<出典:<https://www.realpublicstate.jp/post/bonus-track-1/>,<https://uds-net.co.jp/press-release/press-11641/>>

2. 人が主役になるかたらいの道の活用(歩行者専用道路化)

- かたらいの道を歩行者専用道路化し、住む人・働く人が滞留する場、活動する場として活用する

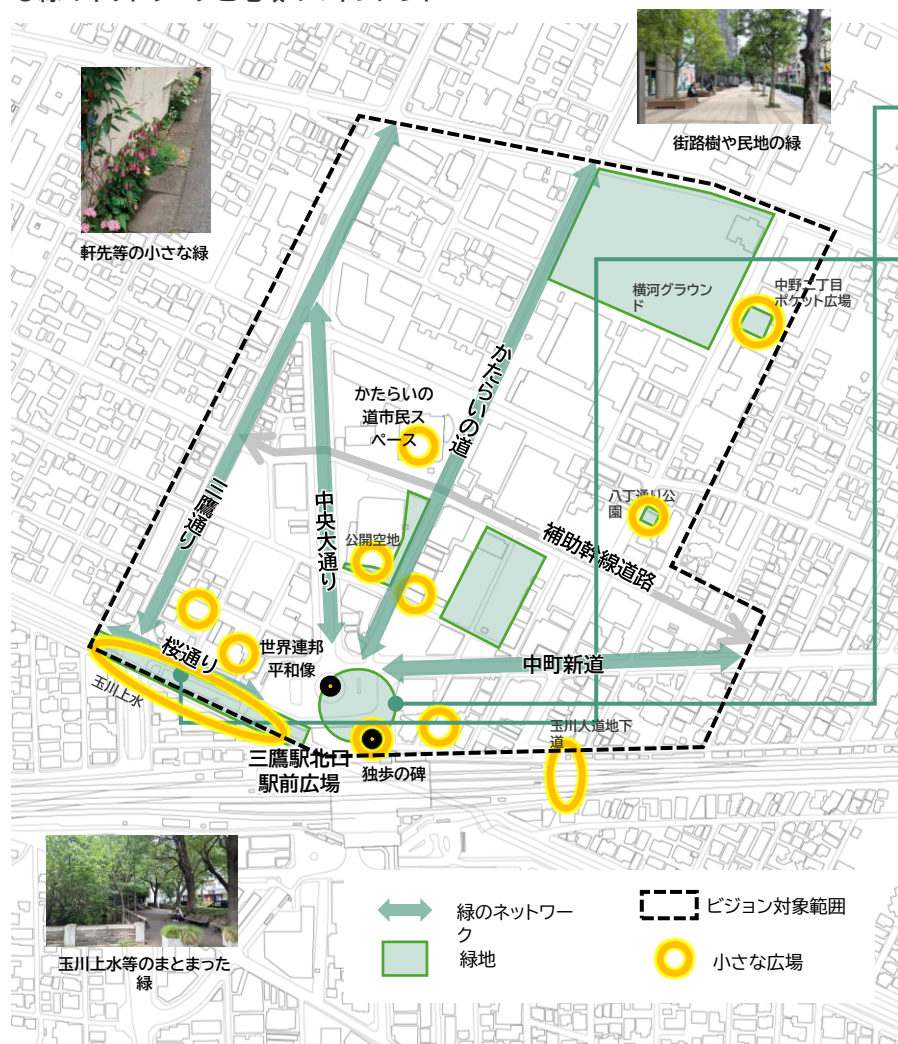
○武蔵野市 タワーズマルシェ@むさしの/ENJOY! OPEN TERRACES



<出典:<https://mu-maru.com>,
<https://www.city.musashino.lg.jp/res/projects/default/project/page/001/031/760/2023kekka.pdf>>

緑・にぎわいの方針(詳細)

●緑のネットワークと地域のマネジメント



方針③:地域固有の価値・資源の活用

1. 文化・歴史資源を活用した空間づくりと活動の促進

- 世界連邦平和像や独歩の碑などの地域の文化・歴史資源を活用した空間づくりや地域の活動を支援する

2. 玉川上水等の資源の保全活用と緑のネットワークの構築

- 玉川上水、街路樹、「小さな広場」等の身近な緑が連続し、生態系ネットワーク構築や、居心地の良い空間形成を促進する
- グリーンインフラとして、温室効果ガスの排出削減や、災害リスク低減に寄与する

3. 身近な暮らしを支える地域経済循環の活性化

- 地域に根付いた産業や商業を基盤に、日々の買い物や仕事、サービスが地域の中でつながり、身近な暮らしを支える経済循環を生む

方針④:地域主体のマネジメントの推進

1. 三鷹ラボを主体としたにぎわいづくりの仕組み構築

- 三鷹駅北口街づくりラボ(三鷹ラボ)の活動を基盤に、市、住民、企業・団体等の協働によってにぎわいを生むための持続可能な仕組みをつくる

2. 地域が主体となった「小さな広場」と緑のマネジメント

- 市、住民、企業・団体等の協働によって、「小さな広場」等のパブリックスペースや緑地の維持管理、運営を行う

市有地活用の方針(案)

【市有地の現状】三鷹駅北口には低未利用の市有地が点在しているが、中1・2駐輪場以外の敷地は面積があまり大きくない。

【改定委員会における議論の方向性】

駅前広場周辺での「小さな広場」の点在や、中1・2駐輪場敷地の滞留空間としての活用も視野に入れ、かたらいの道・駅前広場とつながる魅力的で歩きたくなる空間を創出する

市有地活用の方針(案)

緑・にぎわいの方針を踏まえ、分散する市有地を活用し、住む人、働く人のためににぎわいを生むオープンスペースを段階的に整備する

STEP1 点在する面積の小さい市有地には、住む人、働く人などが日常使いできる、居心地がよいヒューマンスケールの空間を創出する。

STEP2 中1・2駐輪場用地は、駐輪機能を段階的に移設し、地域活動や災害時の拠点として活用できるにぎわいのあるオープンスペースを創出する。

※将来的な市有地・公共施設の在り方や配置については、上位計画や他計画を踏まえつつ、駅周辺の公共用地再編と合わせて今後検討する。

●市有地活用の方針図(案) ※緑・にぎわいの計画の方針(案)に追記

STEP1:

居心地が良いヒューマンスケールの空間創出

※緑・にぎわいの計画の方針(案) 方針②に一部追記

- 民地/市有地、街路を活用し、住む人、働く人などが居心地よく過ごす「小さな広場」を街に埋め込む。
- いろいろな形の「小さな広場(空間)」が、多世代の住む人・働く人が街に関わるきっかけと場を生み出す。

小さな広場イメージ: BONUS TRUCK

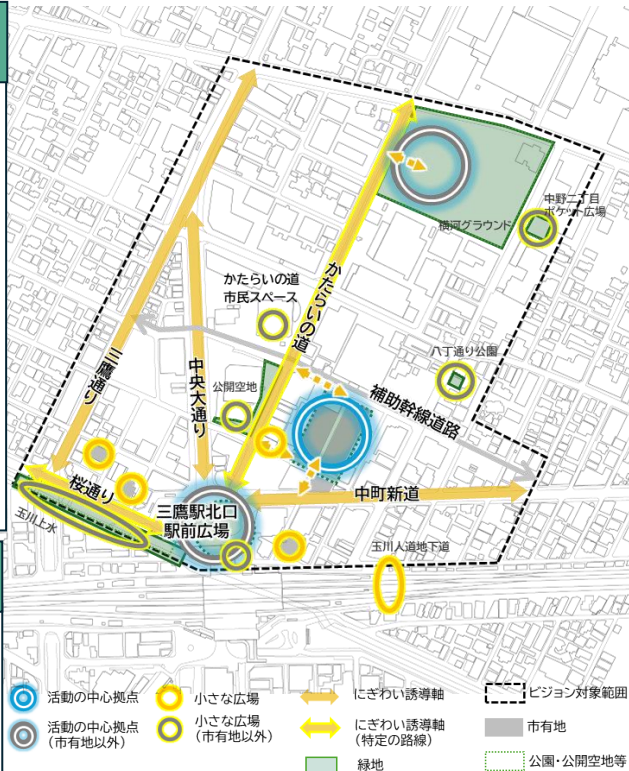


個性豊かなテナントが出店する商業棟・店舗兼住宅4棟、それをつなぐ広場によって構成される新しい形の商店街。広場では、近所の住民やワーカーが集う公園のような活用がされている。

参考:地域主体のマネジメントの推進

※緑・にぎわいの計画の方針(案) 方針④を抜粋

- 既に育まれてきた活動をベースに、地域住民や地元企業等の更なる協働によって緑とパブリックスペースのマネジメントを行う。
- 緑地の維持管理や、イベントの管理運営を地域主体で行う。



STEP2: 活動の中心となる拠点づくり

※緑・にぎわいの計画の方針(案) 方針①に一部追記

- 様々な活動や滞留機能もしくは将来の変化にも柔軟に対応できるオープンスペースを整備する。
- 地域や活動する団体の拠点となる施設の併設が考えられるとともに、災害時の避難場所や防災拠点としての機能の充実にもつながる。

＜中1・2駐輪場用地活用にあたっての考え方＞

中1・2駐輪場用地の活用にあたっては、駐輪機能は維持しつつ、駐輪台数を段階的に移設しながら、オープンスペースの整備を進める方法を検討する必要がある。デザイン性・機能性を兼ねた地上部での駐輪場の誘導、駐輪場の地下化、街並み再生方針等による周辺地区への駐輪機能整備の誘導などの方法が考えられる。

オープンスペースイメージ

おにクル(広場面積約2,050m²)



デザイン性・機能性を兼ねた駐輪場イメージ

カレン・ブリックセンズ・プラス (コペンハーゲン)



押上駅前自転車駐車場



駐輪場上部を活用し、公園機能と駐輪機能を両立している